和痛（無痛）分娩についての説明

合意・同意書

別紙の通り、和痛（無痛）分娩の説明文章を読み、下記の項目について説明を受けました。

確認事項

□ 麻酔薬は副作用や合併症がないことを確認しながら使用する必要があるため、少量ずつ使用していくこと、また麻酔薬を投与したあとに、からだに少しでも不調が生じた際には、すみやかにスタッフに伝えることについて理解しました。

□ 計画分娩は、原則、月・火・木・金曜日の日中が実施可能な時間であること、子宮口の状態に応じて日程を決めるため、基本的に計画分娩の日程は妊娠 37 週以降の妊婦健診において医師の判断により決定していくことについて理解しました。

□ 分娩誘発をして分娩となるまでには 1～3日程度、またそれ以上かかることもあること、また分娩進行中の内診の頻度は多くなることについて理解しました。

□ 麻酔薬を使用し始めてもすぐには効果を感じられない場合があること、麻酔薬の効果には個人差があること、分娩時間が長くなる場合があること、また、陣痛が弱いことやいきめないことにより、赤ちゃんが産道を降りてこられず分娩の進行が止まってしまう状態（分娩停止）になる場合もあり、鉗子・吸引分娩、ときには帝王切開術が必要となる場合があることについて理解しました。

□ 硬膜外麻酔の影響により陣痛が弱くなった場合には子宮収縮促進剤の点滴にて分娩促進を行う場合があること、子宮収縮促進剤の使用には様々なリスクが発生する可能性があることを理解しました。

□ 和痛（無痛）分娩を選択することにより様々な副作用や合併症が現れる可能性が高くなるということについて理解しました。

□ 脊椎麻酔は分娩進行が早い場合に医師の判断のもと行うことがあり、麻酔の効果がなくなるまで歩行は出来ないことを理解しました。

□ 和痛（無痛）分娩を希望される方は、妊娠 35 週頃から自己血（自分の血液）を合計 2 パック分（1 パック 400ml、1 週間に 1 パック採取）貯血することを理解しました。

□ 硬膜外腔に挿入した細い管は、分娩終了後まで挿入したまま過ごすため、細い管を挿入している間は外出・シャワー浴はできないことを理解しました。

□　麻酔薬を使用している間は緊急時の対応、および誤嚥性肺炎防止の為、基本的には食事摂取ができないことを理解しました。

□　「和痛（無痛）分娩を希望される方へ」の文書を家族とともに確認し、理解しました。

□　和痛（無痛）分娩予約後の本人都合によるキャンセルが生じた場合、予約金の返金はなされないことを理解しました。

意思の確認

説明を受け、質問する機会を得たうえで、該当する□にチェックしてください。

□　和痛（無痛）分娩について同意します

□　同意しません

上記の内容について説明を受け、理解したうえで意思を示します。

説明日	令和　　年　　月　　日
説明医師	山梨市立産婦人科医院　　中村雄二
同意日	令和　　年　　月　　日
ご本人または代諾者の署名（続柄）	（続柄　　）

和痛（無痛）分娩実施時確認書

私は、和痛（無痛）分娩について事前に説明を受け、内容を理解したうえで同意しています。

本日の母体・胎児の状態を踏まえても、和痛（無痛）分娩の実施を希望する意思に変わりありません。

確認日：　　年　　月　　日

ご本人または代諾者の署名（続柄）：　　（続柄　　）

医師名：山梨市立産婦人科医院　中村雄二